

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13183

研究課題名(和文) アラビア語チュニス方言の口承文芸の言語学的研究

研究課題名(英文) The linguistic study of the oral literature of Tunis Arabic

研究代表者

熊切 拓 (KUMAKIRI, Taku)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号：60802387

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：チュニジアのアラビア語方言であるチュニス方言で書かれた『アル＝アルウィー物語集』(全4巻)というめっぽう面白い物語集がある。本研究は、チュニス方言・チュニジア文化に関する情報の宝庫とでもいふべきこの書について、現地の方言話者の協力のもと、その全貌を明らかにすべく調査と記録を遂行したものである。

コロナ禍による中断はあったものの、現地調査によって、物語集の語彙、文法的特徴、文化・習慣に関する情報を収集し、全4巻の調査を完了した。さらに調査と並行して、この物語集の生き生きとした語りにも迫るべく言語学的な分析を行い、論文や発表として公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、チュニス方言の研究に『アル＝アルウィー物語集』という大規模な資料を導入したことにある。また、同書は、その価値にもかかわらず、チュニジア国外においてはほとんど知られていないため、このような資料が存在し、言語学的研究に活用できることを示し、その内容について言及したことは、社会的にも意義のあることである。

さらに、語りに関する言語学的研究においても、語順、主題化、動詞形、談話に関わる要素などに関する研究活動を通じて、従来にはない視点から意義のある貢献をなした。

研究成果の概要(英文)：“The Stories of Al-Arwi” (4 volumes in total) is a fascinating collection of stories written in an Arabic dialect of Tunis (the capital city of Tunisia). This study aimed to uncover the full extent of this treasure trove of Tunis Arabic and Tunisian culture, with the cooperation of native speakers, by conducting field work and documentation.

While there was a hiatus due to the COVID-19 pandemic, I carried on 4 linguistic field researches at Tunisia, collecting detailed information on vocabulary, grammatical features and cultural background of “The Stories of Al-Arwi”. Eventually, I completed the preliminary study of all four volumes. Concurrently, I conducted linguistic analysis in order to delve deeper into the lively narrative of these stories, and I published the findings through papers and presentations.

研究分野：言語学 アラビア語学 フィールド言語学

キーワード：チュニジア チュニス方言 口承文芸 語り 主題 語順 モダリティ

1. 研究開始当初の背景

アラビア語チュニス方言(チュニジア)で書かれた『アル＝アルウィー物語集』(1989年、第2版*)は、チュニジアの伝統的な物語を数多く収め、チュニジアの言語と文化を知るうえで、もっとも重要な資料のひとつであるといえる。のみならず、物語じたいが面白く、人間についての深い洞察に満ち、日本という異なる文化においても読まれうる普遍的な価値を持った作品である。

このような重要な著作であるが、研究開始当初は十分な関心が払われていたとはいえなかった。作者であるアブドゥルアズィーズ・アル＝アルウィー(ʿAbd-al-ʿAzīz al-ʿArwī)は、全国的な知名度をもつジャーナリスト・作家であり、この物語集はそもそも彼が1950年代から1960年代にかけてラジオ番組で語ったものがもととなっている。これらの物語は、現代のチュニジアでも愛され、その音源はインターネットでも聞くことができる。とはいえ、あくまでも聞いて楽しむものであり、言語資料として研究の対象となることはほとんどなかった(この物語集の第3版が2023年に出版されるまで、長らく絶版であったのも、これらの物語が読むものではなく、聞くものなのだという意識が関係している)。

チュニス方言研究においても、これまでに物語の収集・記録は行われてはきたものの、これらを言語資料として活用し、「語り」というテキスト全体の「動き」を視野に入れる研究は未開拓の領域であった。

また、チュニス方言の文法研究と基礎的な語彙集はすでに存在していたが、『アル＝アルウィー物語集』のような方言独特の表現に満ち、ときとして難解なテキストを資料として活用するためには不十分であった。

こうした状況を踏まえて、この『アル＝アルウィー物語集』を、日本でも読まれるべき普遍的価値を持った作品として研究の中心に据え、チュニス方言に関する貴重な情報に満ちた宝庫として活用できるようにすべく構想されたのが、本研究である。

(*hikaʾja:t al-ʿArwī. Vol. I-IV. 2nd edition. Tunis: Al-Daʾr al-Tuʾnisi:ja li-l-Naʾr.)

2. 研究の目的

本研究の目的は、『アル＝アルウィー物語集』に関する調査を行い、言語資料として活用できるようにすることであった。具体的には次の5点の目的である。

- (1) 朗読などを録音した音声アーカイブを構築し、音韻研究に役立てる。
- (2) テキストに現れる語彙や慣用句とその意味、形態論的情報を収集・記録し、チュニス方言の語彙・文法の研究に役立てる。
- (3) ことわざや物語特有の言い回しなどを記録し、チュニス方言の口承文芸の研究に役立てる。
- (4) 物語の内容および文化的背景を記録し、チュニジア文化の理解に役立てる。
- (5) 『アル＝アルウィー物語集』の「語り」に見られる文法的特徴の分析を行い、「語り」の実態を解明する。

3. 研究の方法

本研究を遂行するためには、チュニジアにおける現地調査と現地の方言話者による協力が不可欠であった。

まず、『アル＝アルウィー物語集』は、母音が完全には表記されないアラビア文字で記録されているため、実際の音声は完全にはわからない。また、標準アラビア語の正書法に則っているため、方言的な特徴が表記されない場合も多い。そのため、方言話者の朗読や、音声面での解説は非常に重要であった。

また、語彙や文法に関する情報、あるいは内容や文化に関する情報も、現地の方言話者の協力がなければ収集できないものばかりであった。

調査は、『アル＝アルウィー物語集』を読みながら、不明な箇所や文法項目について、方言話者に逐一質問をすることによって行われた。場合によっては、テキストを離れて、文法調査

へと展開していくこともあった。可能なかぎりテキストの朗読もしてもらい、録音した。

また、物語に登場する場所や事物を確認するため、実際に現地を訪問することもあった。訪問地はほとんどはチュニス周辺であったが、スーサやチュニジア南部まで訪れたこともあった。具体的には、メディーナ（旧市街）、さまざまな建築物、モスク、市場、聖廟、博物館、遺跡などである。

4. 研究成果

本研究においては、チュニジアにおける現地調査が重要な要素であり、当初は3年の研究期間のあいだに6回の調査を予定していた。しかし、研究年度初年度である2019年度に2回の現地調査を行ってからは、コロナ禍のためチュニジアに渡航することができず、2年間の研究期間の延長ののち、最終年度である2023年度になって2回の調査を実現することができた。

そのため、現地調査という点では、不十分なものとならざるをえなかったが、それでも、現地のチュニジアの人々の惜しめない協力により、『アル＝アルウィー物語集』の調査を完了することができた。また、調査を通じて、チュニジアの口承文芸の調査の新たな可能性が見えてきたことも、大きな成果であった。

現地調査が不可能であった期間は、これまでえた資料をもとに、論文の公刊と学会発表を積極的に行った。これらの研究により、本研究の目的である「語り」の言語学的特徴の分析を大きく推進することができた。具体的な成果を次に挙げる。

- (1) 現地調査により、テキスト朗読の録音のほか、民話の録音、チュニス方言による会話の録音などを行うことができた。
- (2) 『アル＝アルウィー物語集』全般の語彙・文法・表現などについて調査を完了したことにより、資料全体を言語学的研究、もしくは文化的・口承文芸学的研究に活用できるようになった。
- (3) 『アル＝アルウィー物語集』全4巻に含まれるすべての物語の内容を把握しえた結果、この書の特徴、チュニジア文化における位置づけが明瞭になった。
- (4) 『アル＝アルウィー物語集』の「語り」の言語学的分析を行い、研究成果として公表した。

(3) の『アル＝アルウィー物語集』の内容について一言すれば、全4巻からなる同書には、111のタイトルが収録されている。物語の種類は、魔法物語、歴史物語、宗教説話、人情話、頓知話、現代の逸話など多様であり、さらには20世紀初頭のフランスを舞台にした物語や、物語伝播の関心から、チュニジアの物語に類似したフランスやスペインの民話をチュニス方言で語り直すという試みもある。

チュニジアの民話を集めた文献は他にもあるが、これらと比較してみると、『アル＝アルウィー物語集』には短い笑い話や、子ども向けの不条理な話が含まれないこと、また、差別的な要素や性的な要素も排除されていることもわかってきた。その理由については、今後の研究の課題であるが、ラジオ放送で語られたという事情に加えて、ジャーナリストとしてのアル＝アルウィーの倫理的な立場・意図が反映されたものと考えられる。いずれにせよ、20世紀のチュニジアの社会と文化を考える上でも真剣な考察に値する資料ということができよう。

さらに(4)の言語学的研究についてその主なものを述べる。とくに大きな成果として挙げられるのは、語りにおいて語順の果たす役割を明らかにしたことである。チュニス方言の動詞文（動詞が述語となった文）には、動詞・主語の順となるVS型と、主語・動詞の語順となるSV型がありうるが、VS型には、場面の中心人物を設定し、場面転換のきっかけとなる用法があることを指摘した。

また、「語り」においては、内容をより効果的に聞き手に伝達するため、さまざまな技法が用いられる。このような技法と文法との関係を追求し、与格が事実の提示にかかわる現象、未完了形が事態の異常性を表す非現実性に関わる現象、近称指示接頭辞が「予期せぬ出現」を表す現象、等位接続詞がコメントや語りの締めくくりを表す現象、否定と非現実性の相互作用などについて、研究を積み重ねた。

上記の4点の成果に加え、特筆すべきこととして挙げられるのが、チュニジアの地方都市スーサで毎年開催される「フダーウィーのフェスティバル」の関係者およびスーサ文化委員会と知り合うことができたことであった。「フダーウィー」とは、チュニジアの伝統的な語り部であり、カフェや市場を舞台にその語りを披露した人々である。もともと、こうした語りの文化

は現代では衰退しつつあったが、これに対し、この文化に焦点を当て、世界の語り部の交流の場として企画され開催されてきたのが、このフェスティバルである。本研究の実施を通じて、チュニジア国内の「語りの文化」見直しの流れに接触しえたのは、喜ばしいことであった。

最後に今後の展望について述べる。本研究の進展にともない、以下のようなより広い展望が描けるようになった。

- (1) 資料全体の調査完了により、『アル＝アルウィー物語集』をコーパス化する準備が整った。
- (2) 『アル＝アルウィー物語集』全体での用例の収集が可能になり、「語り」の研究をより深化させた形で行うことができるようになった。
- (3) これまでの「語り」に関する研究を総合し、「語り」の全体像を描く研究が可能となった。
- (4) チュニジア国内の語り部の活動とリンクすることで、「語り」の現場をそのまま観察・記録し、その場全体を研究の対象とする、という新たな方向性が見えてきた。

研究開始時から大きくスケールアップしたこれらの課題に関しては、本研究の後継研究課題である基盤研究(C)「アラビア語チュニス方言における語りの技法と文法」(22K00548)においてひきつづき探究していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 熊切拓	4. 巻 23
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言の等位接続詞の用法	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 開智国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 59-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 熊切拓	4. 巻 14
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言の3人称独立人称詞の談話モダリティ用法	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis	6. 最初と最後の頁 141-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 熊切拓	4. 巻 19
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言の語りにおける未完了形のミラティブ用法	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 帝京科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 41 - 48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 熊切拓	4. 巻 35
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言における未完了形と非現実性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本エドワード・サビア協会研究年報	6. 最初と最後の頁 17～28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊切 拓	4. 巻 43
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言の事態の受容を表わす格構文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集 = Tokyo University linguistic papers (TULIP)	6. 最初と最後の頁 85 ~ 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002002767	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 熊切 拓	4. 巻 160
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言のVS構文による語りの構造化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 97 ~ 122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.160.0_97	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 熊切拓	4. 巻 42
2. 論文標題 ある事態に先行する事態 : アラビア語チュニス方言の起動動詞bda:のアスペクト・モダリティ・談話にわたる用法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 151-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 熊切拓	4. 巻 34
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言における2人称単数の心性と格用法の意味	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本エドワード・サビア協会研究年報	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊切拓	4. 巻 41
2. 論文標題 アラビア語チュニス方言において主題をもつ文の並列が意味するもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学言語学論集	6. 最初と最後の頁 155 - 179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の語りにおける等位接続詞の機能
3. 学会等名 日本言語学会第 166 回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の語りにおける末尾の文について
3. 学会等名 日本言語学会第 168 回大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 The Semantic Change of Irrealis marker to Expletive in Negative Environment
3. 学会等名 21st International Congress of Linguists (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 語りの構造化とアラビア語チュニス方言の動詞構文の語順
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「ナラティブをめぐる形態統語論」2022年度第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の否定と主題化
3. 学会等名 第165回日本語学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の近称指示接頭辞が「突然の出現」を表わす用法
3. 学会等名 日本エドワード・サピア協会第36回研究発表大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 現実性・非現実性の対立とアラビア語方言における二要素否定の発展
3. 学会等名 第163回日本語学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の3人称単数独立人称詞の談話モダリティ用法と主題化
3. 学会等名 第164回日本語学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言のVS構文による語りの構造化
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の未完了形と非現実性
3. 学会等名 日本エドワード・サピア協会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の未完了形における非現実性と時間
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の起動動詞が存在を表す用法について
3. 学会等名 日本言語学会第159回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言における2人称単数の心性的与格用法
3. 学会等名 日本エドワード・サビア協会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊切拓
2. 発表標題 アラビア語チュニス方言の「情報的に余剰な与格」
3. 学会等名 日本言語学会第160回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 熊切 拓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 364
3. 書名 アラビア語チュニス方言の文法研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------